

富本一枝作品一覧

黒崎 真美

尾竹一枝は、一八九三年四月二十日に富山市越前町で、日本画家尾竹熊太郎・ウタの長女として誕生した。父は富山の売薬版画を手掛ける日本画家尾竹越堂である。新潟から移り住んだ越堂・竹坡・国観の三兄弟は、当時の売薬版

画の中軸を担っており、『富山日報』の挿絵も描いていたという。一枝は一八九九年までの幼少期のわずかな期間を富山で過ごし、その後東京の根岸小学校に入学、その後一家で大阪市に転居し、一九〇三年に大阪東区第一高等小学校に入学する。女兒の就学率が高くない時代に一枝は、高等女学校や女子美術学校に進学するなど、非常に高度な教育を享受している。「因習や形式にこだわらない自由人」（渡辺澄子『青鞥の女・尾竹紅吉伝』）という父のもとで育った一枝は、おおらかに自らの生を生きた女性だ。

『青鞥』の尾竹紅吉として、その悪名が世間に知れたのは一九一二年である。青鞥社に在籍していたのはわずか十カ月余りであった。その後、一枝は結婚して三人の

子どもを産み育てるのだが、その生涯の中では雑誌の創刊・編集をし、詩や随筆、小説を書き、講演をし、出版社を立ち上げている。また、日本画や挿絵を描き、本の装丁をし、夫富本憲吉と共に陶器展も開催している。一九六六年九月二十二日に七十三歳で亡くなるまで、富本一枝はこのように多くの仕事をしており、著作だけでも二八九作に上る。

残念ながら一枝の著作を読むためには、全集も作品集も、単行本すらない（児童書はあるが）ため、初出にあたらなければいけない。いずれまとめて読むことができるようになるといいのだが、まずは掲載誌を一覧にまとめ、読むまでの障害を少しでも低くしたい。

ここでは、高志の国文学館の二〇二一年高志プロジェクトも活用させていただき、できる限り一枝の著作を集めて一覧にまとめた。しかし、未見のものもいくつかある。また漏れた作品もあるかもしれない。未見の作品をお持ちの方や、見つけることができなかった新たな作品をご存じの方は、情報をお寄せ下さると幸いである。

なお、一覧には著作の他に絵画・挿絵・装丁等も作品として記載した。

【富本一枝 作品年譜】

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1908	8	15	文苑 美代ちゃんの日記	尾竹一枝	葉月ちとせ会 発行	大阪府立夕陽丘高等女学校 (一枝3年生)
1912	3	1	『最後の霊の梵鐘に』	尾竹紅吉	青鞥	
1912	3	1	銀と詩の色 (最後の霊の梵鐘)	尾竹紅吉	青鞥	
1912	4	1	太陽と壺	尾竹紅吉	青鞥	
1912	4	5	「陶器」 / 第12回異画会絵画展 覧会	尾竹一枝	多都美	
1912	5	1	赤い扉の家より	尾竹紅吉	青鞥	
1912	6	1	或る夜と、或る朝	紅吉	青鞥	
1912	6	1	紅吉の夢	尾竹紅吉	青鞥	
1912	6	1	マグダに就て	紅吉	青鞥	
1912	7	1	帝国劇場の六月女優劇を見る	紅吉	青鞥	
1912	7	1	「あねさま」と「うちわ絵」の展覧 会	紅吉	青鞥	
1912	7	1	歌集 悲しき玩具	紅吉	青鞥	
1912	8	1	夏の日と昼顔	紅吉	青鞥	
1912	8	1	病室の夜	紅吉	青鞥	
1912	8	1	息の動き	紅吉	青鞥	
1912	8	1	浅草から帰へつて	紅吉	青鞥	
1912	8	1	銘酒屋通りの夜	紅吉	青鞥	
1912	8	1	南湖だより	紅吉	青鞥	
1912	9	1	その小唄	紅吉	青鞥	目次「其の小唄」
1912	9	1	南湖だより	紅吉	青鞥	
1912	10	1	紅吉の手紙	尾竹紅吉	黒耀	国枝史郎らモンスク社同人誌
1912	10	1	お夢さまの小函	紅吉	青鞥	
1912	10	1	帰へつてから	紅吉	青鞥	
1912	10		「弾琴」 / 文展落選			(未見)
1912	11	1	群衆のなかに交つてから	紅吉	青鞥	
1912	11	1	冷たき魔物	紅吉	青鞥	
1912	11	1	編輯室より	紅吉	青鞥	
1912	11	1	東京観36 紅吉より記者へ (上)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1912	11	2	東京観37 紅吉より記者へ (下)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1912	12	1	断章五つ	尾竹紅吉	黒耀	
1913	1	1	匿されたるわが心	尾竹紅吉	黒耀	新年號
1913	1	1	ある日の夕	尾竹紅吉	黒耀	新年號
1913	1	1	Zabon no mi	尾竹紅吉	黒耀	新年號
1913	1	1	穉き頃の扉	尾竹紅吉	黒耀	
1913	1	1	一人一優——浦路子	尾竹紅吉	趣味	
1913	1	1	謂ゆる新しき女との対話——尾竹紅 吉と一青年	尾竹紅吉	新潮	
1913	1	1	アダムとイブ	尾竹紅吉	青鞥	
1913	1	3	芸娼妓の群に対して	尾竹紅吉	中央公論	新年臨時號
1913	1	20	婦人問題の研究 新しい女は瞬間 である	尾竹紅吉	時事評論	
1913	2	1	愛の看守	尾竹紅吉	黒耀	
1913	3	5	胡桃の恋と玉恵の恋	尾竹紅吉	時事評論	
1913	3	欠	坂本紅蓮洞様	紅吉	黒耀	
1913	4	5	「琵琶の実」 / 第13回異画会絵画展覧会	尾竹一枝	多都美	
1913	5	1	(装丁) / 平塚らいてう『圓窓より』	無署名	東雲堂書店	
1913	7	1	談話室 迷信かも知れぬ	尾竹一枝女 史談	新真婦人	主宰：西川文子、 木村駒子、宮崎光子ら
1913	7	15	自叙伝を読んで平塚さんに至る	尾竹紅吉	中央公論	婦人問題号
1913	7		「沙門」 / 第一回八華会	尾竹九轡		(未見)

劇評・資料・報告

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1913	8	1	信濃路 (一)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	2	信濃路 (二)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	9	信濃路 (三)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	10	信濃路 (四)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	18	新潟から	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	19	柳と水の町	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	20	信濃川の岸	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	22	盆踊の樽叩き	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	23	ネヅリと美人	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	24	新潟美人 (上)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	25	新潟美人 (下)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	26	おゝ佐渡ヶ島	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	8	31	左様なら新潟	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	6	城跡の旅	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	7	文字摺の晩鐘	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	9	赤土と八月の夕陽	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	10	豚と美少年と兎	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	16	秋田物語 (一)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	17	秋田物語 (二)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	18	秋田物語 (三)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	20	秋田物語 (四)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	21	秋田物語 (五)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	22	秋田物語 (六)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	23	秋田物語 (七)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	29	秋田物語 (八)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	9	30	秋田物語 (九)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	10	1	問題の尾竹紅吉嬢 (写真)		新小説	
1913	10	1	東西南北 尾竹一枝氏より	尾竹一枝	新真婦人	
1913	10	1	秋田物語 (十)	尾竹紅吉	東京日日新聞	
1913	10	5	NAMAKEMONO	尾竹紅吉	新公論	目次：公論文藝 なまけ者
1914	1	1	太陽と命—この夜頃の感想—	尾竹一枝	多都美	
1914	1	1	朝の祈り	尾竹一枝	多都美	
1914	2	18	(装丁) / 荒木郁『火の娘』	尾竹一枝	尚文堂書店	
1914	3	1	私の命	尾竹一枝	番紅花	表紙・カット・裏絵：富本憲吉
1914	3	1	朝の礼拝	尾竹一枝	番紅花	
1914	3	1	夜の葡萄樹の蔭に	尾竹一枝	番紅花	
1914	3	1	あはれかなし	尾竹一枝	番紅花	
1914	3	1	悲しきうたひ手	尾竹一枝	番紅花	
1914	3	1	自分の生活	尾竹一枝	番紅花	
1914	3	1	海外消息	K・O	番紅花	
1914	3	1	編輯室にて	をだけ・かづゑ	番紅花	
1914	4	1	春の小曲	をだけ・かづゑ	番紅花	表紙・扉絵・裏絵：富本憲吉
1914	4	1	雑感	尾竹一枝	番紅花	
1914	4	1	海外消息	リツスラー	番紅花	
1914	4	1	編輯室にて	オガ ^ク ケツ ^エ /リツスラー	番紅花	
1914	5	1	Cの競争者	尾竹一枝	番紅花	表紙・扉絵・裏絵：富本憲吉
1914	5	1	晩の祭物と無智な契約	尾竹一枝	番紅花	
1914	5	1	海外消息	リツスラー	番紅花	
1914	5	1	編輯室にて	リツスラー	番紅花	
1914	5	1	(書籍紹介)	リツスラー	番紅花	
1914	6	1	夢をゆくわが船の	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	海からに	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	海の旅人	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	雨	尾竹一枝	番紅花	

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1914	6	1	夜の瞳	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	白薊の花	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	暮調	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	露台の草花	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	銀色の花	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	五月の雨	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	旅の別れ	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	草と小鳥と魚と神様	尾竹一枝	番紅花	
1914	6	1	編輯室より	カヅエ	番紅花	
1914	7	1	いたづらな雨	尾竹一枝	番紅花	
1914	8	1	俳優の青い鳥	尾竹一枝	番紅花	
1914	8	1	薄暮の時	尾竹一枝	番紅花	
1914	8	1	紅し紅し	尾竹一枝	番紅花	
1914	8	1	眠れよ旅人	尾竹一枝	番紅花	
1914	10	1	挿絵 (2点)	尾竹紅吉	二十世紀	編集：本田芳恭
1914	12	1	紅吉女史の花嫁姿 (写真)		淑女画報	
1915	1	1	冬三章	富本一枝	反響	編集：生田長江
1915	9	9	短歌	富本一枝	反響	
1915	10	1	九月の歌壇より 短歌二首	富本一枝	青鞥	
1916	1	1	雑記帳より	富本一枝	科学と文芸	総合芸術雑誌
1916	4	1	雑記帳より	富本一枝	科学と文芸	
1916	5	1	雑記帳より	富本一枝	科学と文芸	
1916	6	1	雑記帳より	富本一枝	科学と文芸	
1917	1	1	結婚する前と結婚してから	富本一枝	婦人公論	新年大付録号
1917	2	1	現代婦人画家の群に寄す	富本一枝	美術	(七面社)
1917	4	1	富本憲吉君の芸術 何故、正直な方法で勝つ事が困難か	富本一枝	美術	(七面社)
1919	12	1	海の沙	富本一枝	解放	有島武郎の推薦
1920	10	1	私達の生活	富本一枝	女性日本人	婦人総合雑誌
1920	11	13	旬四章	富本一枝	女性同盟	新婦人協会機関誌 編集市川房江
1921	1	1	自分にきかず言葉	富本一枝	女性同盟	目次：自分に云ひきかず言葉 (詩)
1921	1	1	子供と私	富本一枝	婦人之友	
1921	2	1	地にすめるもの	富本一枝	女性日本人	
1921	3	1	父と母に	富本一枝	婦人之友	
1921	3	7	心にきく	富本一枝	女性同盟	目次：自分に聞く (詩)
1921	4	1	小さき種	富本一枝	女性日本人	
1921	4	1	伊藤白蓮氏に	富本一枝	婦人公論	
1921	5	1	子供を讃美する	富本一枝	婦人之友	
1921	6	1	安堵村日記	富本一枝	婦人之友	
1921	10	1	秋日断片 (感想)	富本一枝	婦人之友	
1921	10	30	母の手記 (一) ~ (四) / 神戸伊三郎『母の指導する子供の理科』	富本一枝	目黒書店	
1921	12	1	女流諸家の感想 (三) 人を撃つ石	富本一枝	婦人之友	
1922	4	1	人生花実観 草の芽生	富本一枝	女性日本人	
1922	8	1	散録	富本一枝	女性	
1922	10	1	秋日夜光——A氏に宛た手紙	富本一枝	文化生活	目次：「秋日夜光 (A氏に宛たる手紙)」
1922	10		はしがき		小さき泉	(未見)
1922	10		跋		小さき泉	(未見)
1922	11	1	母親の手紙 上	富本一枝	女性	
1922	11		(裏絵)		小さき泉	(未見)
1922	11		尊い発見		小さき泉	(未見)
1922	12	1	母親の手紙 下	富本一枝	女性	
1922	12		偶感		小さき泉	(未見)
1922	12		(表紙絵)		小さき泉	(未見)

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1923	1		偽の塊		小さき泉	(未見)
1923	3	1	貧しき隣人	富本一枝	婦人公論	
1923	4	1	感想 夢想家A	富本一枝	婦人之友	
1923	7	1	生の歓びを感じずる時 あきらめの底から	富本一枝	婦人公論	
1923	8	1	初夏雑稿	富本一枝	女性日本人	
1923	8	1	短篇 陰ある記憶	富本一枝	婦人之友	
1923	9	1	祈するもの	富本一枝	文化生活の基礎	
1924	3	1	母の苦楽 母の言葉	富本一枝	婦人之友	
1924	5	1	塵 (感想)	富本一枝	婦人と労働	職業婦人社機関誌
1924	6	1	生活のよろこび 太陽が萬人のものである如く	富本一枝	婦人之友	
1924	7	1	肩の凝らぬ話	富本一枝	文化生活の基礎	
1924	8	1	私たちの小さな学校に就て 1. 母親の欲ふ教育	富本一枝	婦人之友	
1924	4	13	父上に / 河井醉茗編『現代婦人の手紙』	富本一枝	アルス	
1925	4	1	あの頃の話	富本一枝	婦人公論	
1925	8	1	或る日と或る日	富本一枝	文化の基礎	
1925	9	1	感想 歪んだ額	富本一枝	婦人之友	
1926	1	20	街頭の模様 / 『一日一文』	富本一枝	朝日新聞社	
1926	8	1	私の希ふことは	富本一枝	全人 教育問題研究	装幀：富本憲吉
1926	10	1	鮎	富本一枝	週刊朝日	
1926	10	1	父上に / 福山秀賢編『明治大正女流名家書簡選集』	富本一枝	大日本雄弁会	
1927	1	1	東京に住む	富本一枝	婦人之友	
1927	6	1	嫌いな女 スケッチ	富本一枝	婦人之友	
1928	9	1	七月抄	富本一枝	女人芸術	編集：長谷川時雨
1929	6	1	女人芸術一年間批判会	富本一枝	女人芸術	座談会：平塚らいてう 今井邦子 新妻伊都子 生田花世 伊福部敬子 望月百合子 上田文子 中本たか子 平林たい子 林芙美子 八木秋子 熱田優子 素川絹子 小池みどり
1929	6	1	新型ハウス・ドレスの作り方 洋服の布地は自由に選びたい	憲吉氏夫人 富本一枝	婦人公論	
1929	7	1	口絵 (富本一枝近影)	富本一枝	女人芸術	(写真・文)
1929	7	1	夜明けに吸はれた煙草——1929年の夢	富本一枝	女人芸術	
1929	8	1	平塚雷鳥氏の肖像——らいてう論の序に代へて	富本一枝	女人芸術	目次：平塚らいてう氏の肖像
1930	1	1	日記の抜書	富本一枝	婦人運動	
1930	4	1	鼠色の廢館——長崎風景の一つ	富本一枝	女人芸術	
1930	4	1	光永寺門前——長崎風景の一つ	富本一枝	火の鳥	編集：竹島きみ子
1930	4	1	獅子と鼠	富本一枝	婦選	婦選獲得同盟社機関誌 編集：市川房江 奥付：三月一日発行
1930	9	1	米を量る	富本一枝	火の鳥	
1930	11	1	台所礼讃 共同炊事に就いて	富本一枝	婦人公論	
1930	11	1	私が結社権を獲たら	富本一枝	婦選	
1931	7	1	女人芸術よ、後れたる前衛になるな	富本一枝	女人芸術	
1931	7	6	妾の処女時代	尾竹紅吉	サンデー	
1932	1	1	母として目覚めなければならない時 相 座談会	富本一枝	女人芸術	

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1932	1	1	七日抄 / 佐藤信重 麻生恒太郎 編『新興詩・随筆選集』	富本一枝	詩と人生社	代表：生田花世
1934	10	1	おたより 新鹿澤温泉 富本一枝	富本一枝	婦人文芸	主宰：神近市子
1934	12	1	『父親の鼻』の弁解	富本一枝	婦人文芸	
1935	2	1	痛恨の民	富本一枝	婦人公論	
1935	5	1	家を嫌ふ娘を語る座談会	富本一枝	婦人公論	座談会：西村伊作 奥むめお 竹田菊 草間八十雄 河崎なつ 嶋中雄作
1935	8	1	旅日記	富本一枝	婦人文芸	
1935	9	1	随筆—新鹿沢日記	富本一枝	政界往来	
1935	9	1	誌友通信	富本一枝	婦人文芸	
1935	11	1	福田晴子さん	富本一枝	婦人文芸	
1935	12	1	タンスマン作『トリプテイク』	富本一枝	婦人文芸	
1936	1	1	深尾須磨子著「丹波の牧歌」	富本一枝	婦人文芸	
1936	2	1	稗と糠の飯	富本一枝	米之友	
1936	2	1	宇野千代の印象	富本一枝	中央公論	
1936	2	25	雑録	富本一枝	天界	
1936	3	1	獨樂	富本一枝	政界往来	
1936	5	15	女心	富本一枝	スタア	
1936	11	1	時事批判座談会	富本一枝	婦人文芸	座談会：深尾須磨子 村岡花子 丸岡秀子 平林たい子 石本静 枝 神近市子
1936	12	1	美しき富士—アーノルド・フアン ク博士に(随筆)	富本一枝	婦人文芸	
1937	3	10	白い花	富本一枝	女性展望	
1937	3		女芸人	富本一枝	雑記帳	出版：総合工房 主宰：松本俊介
1937	4	1	原節子の印象	富本一枝	婦人公論	
1937	4	1	職業婦人の演劇	富本一枝	婦人文芸	
1937	5	1	貝光	富本一枝	明日香	
1937	5	1	私の顔	富本一枝	婦人公論	
1937	5	10	女性の社会時評座談会	富本一枝	女性展望	座談会：円地文子 平塚雷鳥 平林たい子 山室民子 山本杉 子 金子しげり
1938	9	1	明日の若木……娘から孫へ……	富本一枝	婦人公論	
1938	11	1	猫児(夢)	富本一枝	文体	
1938	11	23	春と化粧 / 『新装・着物随筆』	富本一枝	双雅社	
1938	12	1	少年の日記	富本一枝	文体	
1939	1	1	今まで誰にも話さなかった話 探偵 になりそこねた話	富本一枝	婦人公論	目次「探偵になり損なつた 話」
1939	2	1	石鱈の誘惑	富本一枝	新風土	随筆雑誌 小山書店
1939	3	1	新聞社会面から拾ふ 母と子の問題 —映画法と少年工—	富本一枝	愛育	目次：「時評 映画法と子 供其他」
1939	4	1	愛育時評 乳幼児保護法について	富本一枝	愛育	
1939	5	1	愛育時評 絵本は改善されたか	富本一枝	愛育	
1947	5	1	後記	富本一枝	風花	
1947	7	30	後記	無記名	風花	
1947	8	31	後記	無記名	風花	
1948	2	1	後記	編集部	風花	
1948	5	1	後記	編集部	風花	
1948	7	1	後記	編集部	風花	
1948	9	10	後記	編集部	風花	
1948	11	1	(発行) / 久保田万太郎『1に 1 2をかけるのと、1 2に1をかける のと』	富本一枝	山の木書店	
1949	2	1	風花編集室	編集部	風花	
1949	4	1	風花編集室	編集部	風花	
1949	6	1	私の受けてきた教育—おもかげ—	富本一枝	教育	世界評論社

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1951	3		すべて明日のために	富本一枝	図書	岩波書店
1951	6	1	奥さんと鶏	富本一枝	美しい暮しの手帖	
1952	6	1	村の保育所	富本一枝	美しい暮しの手帖	
1952	12	1	おくびょうなうさぎ	富本一枝	美しい暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A③
1953	3	1	亀さんに口をひっかかれた犬のお話	富本一枝	美しい暮しの手帖	
1953	3	1	春未だ遠く	富本一枝	美しい暮しの手帖	
1953	6	5	不思議なお菓子	富本一枝	美しい暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑭
1953	9	1	魔法の指輪	富本一枝	美しい暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A①
1953	12	1	靴作りとこびと	富本一枝	美しい暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B④
1954	3	1	いなくなった三びきのこねこ	富本一枝	暮しの手帖	
1954	3	13	子どものために——『こどもの本の読み方・読ませ方』	富本一枝	図書新聞	
1954	6	1	こびとのおひっこし	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑱
1954	9	1	狐のいたずら	富本一枝	暮しの手帖	
1954	12	1	黒鯛三びき大明神	富本一枝	暮しの手帖	
1954	12	5	笠をかぶったお地蔵さん	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑤
1955	2	5	玉ねぎと子うさぎ	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B③
1955	5	5	村一ばんのおばかさん	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑮
1955	9	5	花のお城	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B②
1955	12	5	ふしぎなたね	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑥
1956	2	5	きつねの建築師	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑱
1956	2		「青鞥社」のころ（座談会）	富本一枝	世界	岩波書店 座談会：平塚らいてう 山川菊栄 村田静子 林茂
1956	3	1	「青鞥社」のころ（座談会）（二）	富本一枝	世界	座談会：平塚らいてう 山川菊栄 村田静子 林茂
1956	5	1	特集児童憲章と保育所 その日まで	富本一枝	保育の友	
1956	5	5	鼻なしのダッタ	富本一枝	暮しの手帖	
1956	7	5	魔法の棒	富本一枝	暮しの手帖	
1956	7	6	大切な一票		平和ふじん新聞	(未見)
1956	7	10	牛雲おしょうさま / 福山秀賢編 『仏教童話全集』第八巻	富本一枝	大法輪閣	
1956	9	5	ふたつのおはなし その一 狼のしくじり その二 ちびっこの牛	富本一枝	暮しの手帖	
1956	12	5	兎と象とお月さま	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑮
1956	12	10	山伏と親鸞さま / 福山秀賢編 『仏教童話全集』第六巻	富本一枝	大法輪閣	
1957	2	5	王さまになった粉ひきのハンス	富本一枝	暮しの手帖	
1957	2	10	一本の草——呂志真のお話 / 福山秀賢編 『仏教童話全集』第九巻	富本一枝	大法輪閣	

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1957	5	5	おさるのかおはなぜあかい	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A12
1957	5	10	クマラジュのねがい—お経を中国のことばに書きかえたひと / 福山秀賢編『仏教童話全集』第三卷	富本一枝	大法輪閣	
1957	7	1	悪魔の植物 / 阿部知二 国分一太郎編『子どもに聞かせたいとおきの話』第1集	富本一枝	英宝社	
1957	7	5	雨を降らせた傘屋さん	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A9
1957	7	5	行基さま / 福山秀賢編『仏教童話全集』第七卷	富本一枝	大法輪閣	
1957	8	15	字のないお経 / 福山秀賢編『仏教童話全集』第一〇卷	富本一枝	大法輪閣	
1957	9	5	おさるがくれた大判小判	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B20
1958	2	5	金の小犬と銀の小犬	富本一枝	暮しの手帖	
1958	3	30	青鞥前後の私 / 松島栄一編『講座女性V—女性の歴史—』	富本一枝	三一書房	
1958	5	5	わら一束で米千俵	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B12
1958	7	5	鹿からもらったお嫁さん	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B17
1958	9	1	愛者—父の信仰と母の信仰	富本一枝	大法輪	
1958	9	5	二ひきの狐 からかさ狐、狐のうそ手紙	富本一枝	暮しの手帖	
1958	12	5	ペッピ君とピッペ	富本一枝	暮しの手帖	
1959	2	5	青いカラス	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A10
1959	2	28	教師の中の「夢」—明日の教師— / 国分一太郎 丸岡秀子編『良い教師になるために：第三教師生活』	富本一枝	新評論	
1959	4	25	一つの原型 / 草野心平編『高村光太郎と智恵子』	富本一枝	筑摩書房	
1959	5	5	神さまが腹をたてた話	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A19
1959	7	5	一枚の銀貨	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A2
1959	9	5	笛吹きトム	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A11
1959	12	5	消えたガチョウ	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B8
1960	2	5	ツルにももらった袋	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B11
1960	5	5	銀のかご	富本一枝	暮しの手帖	
1960	7	5	タヌキのかたきうち	富本一枝	暮しの手帖	
1960	9	5	かしこいはた織り	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A17
1960	12	5	虹の御殿	富本一枝	暮しの手帖	
1960	12	10	神さまが腹をたてた話 狼のしくじり / 藤城清治『影絵 藤城清治・作品集』	富本一枝	東京創元社	
1961	2	5	魔法のまんじゅう	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A14
1961	3	1	句集「凡老」を讀みて	富本一枝	風花	
1961	5	5	スズメの家	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A8

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1961	7	5	かぶと虫先生	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑩
1961	9	3	婦人運動、今と昔（座談会）	富本一枝	朝日ジャーナル	座談会：平塚らいてう 山川菊栄 市川房枝
1961	9	5	ずるいうさぎ	富本一枝	暮しの手帖	
1961	9	10	『青鞥』発刊五十周年（対談）	富本一枝	婦人界展望	対談：平塚らいてう
1961	11	1	天狗にもらった金の壺	富本一枝	母の友	
1961	12	5	大きい男とちっちゃな妖精	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑬
1962	2	5	竜王国へいったおじいさん	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑦
1962	5	5	飛行機にのってきた子ぐま	富本一枝	暮しの手帖	
1962	7	5	妖精のお城	富本一枝	暮しの手帖	
1962	9	5	いんちきうらない	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑩
1962	9	10	或る夕方	富本一枝	婦人界展望	
1962	12	5	ひげのはえた花嫁	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑩
1963	2	5	太陽がいちどに10もかがやいた話	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑬
1963	5	5	お魚も鹿もどこかへ行ってしまった	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑨
1963	7	5	アリと蚊をたすけた天女の子	富本一枝	暮しの手帖	
1963	9	5	すずめのくれたひょうたんのたね	富本一枝	暮しの手帖	
1963	12	5	粉屋のハンスとねこのお城	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑥
1964	2	5	おじいさんをだました赤ギツネ	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑦
1964	5	5	牧場をあらす二ひきのオオカミ	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑬
1964	7	5	小箱におしこめられたびんぼう神	富本一枝	暮しの手帖	
1964	9	5	森の妖精といじわるばあさん	富本一枝	暮しの手帖	
1964	11		（装丁） / 山田貞子『秋裕』	無署名	風花書房	挿画：富本憲吉
1964	12	5	南の島の物語	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B⑤
1965	2	5	森の妖精にもらったバラの花	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A⑫
1965	5	5	ひかりさんと春風くん	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』B①
1965	7	5	遠い国のみえる銀の皿	富本一枝	暮しの手帖	『お母さんが読んで聞かせるお話』A④
1965	7	29	夏をすずしく		新婦人しんぶん	（未見）
1965	8	30	一つの原型 / 伊藤信吉 北川太一 高村規編『紙絵と詩 智恵子抄』	富本一枝	社会思想社	現代教養文庫
1966	3	3	今と昔		新婦人しんぶん	（未見）
1966	3	13	米軍の迷案（コラム「小石」欄）	紅	婦人民主新聞	
1966	4	28	すずめの女房		新婦人しんぶん	（未見）
1966	5	1	児童憲章十五周年によせて 私の思うこといいこと 日本だけの問題ではない	富本一枝	子どものしあわせ	母と教師を結ぶ雑誌 福音館書店
1966	5	8	戦争とはいわずに（コラム「小石」欄）	紅	婦人民主新聞	
1966	6	1	母の像 今日を悔いなく	富本一枝	子どものしあわせ	

西暦	月	日	作品 / 書籍・展覧会	署名	掲載誌・出版社	備考
1966	6	30	ビートルズと勲章	富本一枝	新婦人しんぶん	
1966	7	17	危ない街角 (コラム「小石」欄)	紅	婦人民主新聞	
1972	11	15	魔法の指輪 一枚の銀貨 おくびょうな兎 遠い国のみえる銀のさら 笠をかぶったお地蔵さん 粉屋のハンスと猫のお城 竜王国へいったおじいさん スズメの家 雨を降らせた傘屋さん 青いカラス 笛吹きトム おさるの顔はなぜ赤い 大きい男とちっちゃな妖精 魔法のまんじゅう 兎と象とお月さま ひげのはえた花嫁 かしこいはた織り きつねの建築師 神さまが腹をたてた話 森の妖精にもらったバラの花 / 富本一枝 藤城清治『お母さんが読んで聞かせるお話A』	富本一枝	暮しの手帖社	
1972	11	15	ひかりさんと春風くん 花のお城 玉ねぎと子うさぎ 靴作りと小人 南の島の物語 ふしぎなたね おじいさんをだました赤ギツネ 消えたガチョウ お魚も鹿もどこかへ行ってしまった かぶと虫先生 ツルにもらった袋 わら一束で米千俵 牧場をあらす二ひきのオオカミ ふしぎなお菓子 村一ばんのおばかさん いんちきうらない 鹿からもらったお嫁さん 太陽が一度に10もかがやいた話 こびとのおひっこし おさるがくれた大判小判 / 富本一枝 藤城清治『お母さんが読んで聞かせるお話B』	富本一枝	暮しの手帖社	

参考文献：渡邊澄子『青鞥の女・尾竹紅吉伝』2001.3 不二出版
高井陽・折井美耶子『薊の花 富本一枝小伝』1985.6 ドメス出版